



平成26年度国有林野所在市町村長有志連絡協議会を開催

平成26年度 国有林野所在市町村長有志連絡協議会を開催

2014年11月27日に熊本市のKKR熊本ホテルにおいて、国有林野が所在する市町村との連携を一層推進し、地域の声を国有林野事業に反映させていくことを目的として、各県ブロックからの代表市町村長と代表森林管理署長、局長をはじめとした関係職員の下「平成26年度国有林野所在市町村長有志連絡協議会」を開きました。

また、同連絡協議会の開催に先立ち、2014年10月6日から31日までの間、九州・沖縄の各県毎に国有林野所在市町村長有志協議会が開かれました。

連絡協議会では、冒頭に川端省三九州森林管理局長からあいさつがあり、「森林資源が充実し本格的な利用期を迎えている現在、林業を成り立たせ循環させることが求められ、林業の成長産業化が必要になっている。また、一般会計へ移行して2年が経過し、施策の2本柱である「公益重視の管理経営」「森林・



冒頭あいさつをする川端局長

林業の再生への貢献」についても、徐々に方向性が見えてきた九州の森林の多様性を活かして公益的機能の発揮を図り、九州から林業再生に向けた取り組みを発信したい。

その為には民有林と国有林が連携を取りながら進めることが重要であり、地域の声を傾けながら地域再生・林業再生に努めたい。今後とも皆様のご支援とご協力をお願いしたい。」と関係各位に協力を呼びかけました。

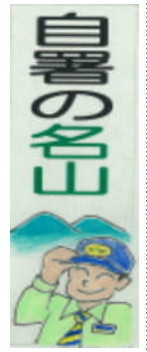
続いて、林野庁から出席した 淵上和之経営企画課長から、「農林水産省では、現在の、攻めの農林水産業を展開し、農林水産業を成長産業とすべく検討が進められ、森林・林業関係では、新たな木材需要の創出と安定供給体制の構築等について検討が進められているところ。本日は地域の代表の市町村長と林野庁とが直接意見交換を行うことができる貴重な場であり、忌憚のないご意見を賜り、森林・林業

施策や国有林野事業の円滑な遂行に反映していきたい」との挨拶とともに、国有林野事業の主要な取組、平成27年度予算概算要求、地球温暖化を巡る状況と森林吸収源対策の推進、森林計画や国産材利用の推進、地域の安全・安心の確保を図る治山事業の展開、その他各種森林・林業関係施策についての説明が行われました。

続いて、森林管理局からの情報提供として、中山浩次計画保全部長から「山地災害の発生状況と治山事業による対策」、矢野彰宏森林整備部長から「九州国有林における主伐・再造林の取組と今後の苗木需要動向」といった、九州における最近の取組事例について説明が行われました。その後、代表市町村長から、各県ブロックで開催された有志協議会の内容も踏まえつつ、公共建築物における木材利用、木材需要の拡大に向けた地域での様々な取組みや国に対する要望など沢山のご発言をいただきました。

最後に、林野庁、九州森林管理局としてもこうした課題などを受け止め、今後ともしっかりと取り組んでいくとの考えが示され、閉会となりました。

(担当) 企画調整課



宮崎南部森林管理署

串間森林事務所

首席森林官 小川 義則

今回は、串間市の東部に位置する市で一番高い高畑山標高517・6㍎を紹介します。

山頂までのルートは県道440号線「高畑山本城線」を道な



遠くに見える高畑山の山頂



樹齢350年生のスギやイチョウが生育する滝山神社

帰りは山を下り、海岸線を日南方面に走ると左手に鳥居が見え、ここをめぐって進むと滝山植物群落保護林及び滝山神社があります。滝山植物群落保護林は高年齢広葉樹天然林の保護を目的に平成5年3月31日に指定され、面積4・71㍎、樹齢130年以上のアラカシ・シイ類その他多くの広葉樹が生育しており、植物学上貴重な森林となっ

串間市で一番高い山「高畑山」517・6㍎

りに進み、高畑岐れから高畑山を目指し車で行くことができます。高畑山の山頂は、中国地方や四国の周辺空域を監視している航空自衛隊春日基地の高畑山分屯基地になっており、山頂に登る時は事前に許可を取って

ないと登ることはできません。山頂からは、国の天然記念物「御崎(みさき)馬」が生息する都井岬や芋洗いで有名な野生のニホンサルが生息する幸島、限らない水平線の日向灘などの大パノラマが展開されます。

ています。

また、隣接する滝山神社には樹齢350年のスギやイチョウの木があり、串間市の文化財に指定されており、周りの保護林と調和し神秘的な雰囲気を感じ出し、心が洗われる場所です。高畑山は、車で行ける身近な山ですので、天気の良い日にはご家族で出かけてみてはいかがでしょうか。



国の天然記念物の御崎馬



植物学上貴重な「滝山植物群落保護林」

五ヶ瀬町内小学生へ森林教室

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町内の小学校4校からの要請を受け、5年生35人を対象に五ヶ瀬スキー場及びその周辺において森林教室を行いました。午前中は五ヶ瀬スキー場から九州中央山地遊歩道沿いの自然観察を行い、講師の話を中心にメモを取りながら質問をしていました。午後からは、ブナの植樹体験を行い、その後、シカ被害の現状を学習した後、児童を6班に分け、シカカードゲームを行いました。ゲームではシカが増えすぎて森が全滅。その後、木々を増やしながらかの再生を図っていました。シカが増えすぎると大変な被害が発生する事を改めて実感していました。



植樹の指導を受ける児童ら＝宮崎北部

「熊本市水道の森」調印締結 イメージキャラクター「ウォッタ君」も登場

11月26日、局長室において熊本市上下水道局と「法人の森林」の契約調印式が行われました。対象地は、熊本森林管理署管内の大野国有林内（熊本県西原村）の3,04畝で、林齢50年生の針葉樹林。名称は「熊本市水道の森」で契約期間は20年となっています。

熊本市は、水道水源のすべてを地下水で賄っており、水道創設90周年を契機に、地下水かん養効果のある森林保全活動を通じて、広く市民に健全な水環境の重要性について普及啓発を行うことを目的に今回の契約に至ったものです。

調印式には、寺田勝博熊本市上下水道事業管理者と川端省三局長らが出席。水道局のイメージキャラクター「ウォッタ君」や報道陣が見守る中、川端局長



調印式に参加した「ウォッタ君」

が「上水道を地下水のみで賄う」という全国的にも類を見ない熊

国有林と効果的な事業を推進

（公財）屋久島環境文化財団は、屋久島の自然を守り、自然と共生する新しい地域づくりを進めるため、環境学習、地域づくり支援などさまざまな事業を展開しております。



屋久島環境文化財団 事務局長 溝口 正明さん

溝口 正明さん

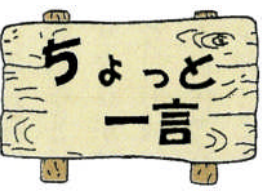
（担当）森林整備課企画官（木材需給対策担当）

「担当」森林整備課企画官（木材需給対策担当）

共にある暮らしを現した言葉で、また屋久島の風習「岳参り」は、春秋に奥岳の山の神に海の幸を供えて豊漁豊作・家内安全などを祈るもの。どちらも、自然の恵みを感じ、畏敬し、自然の中での共生が感じられます。

20周年記念事業での林野庁との協働事業は、屋久島の昔の暮らしや岳参りと同じく「共生」「保全」「持続的利用」を考慮の上でも有意義でした。

今後とも林野庁と協働事業で効果的な事業の推進を図りたいと考えております。



例年、林野庁には、講師やシカバネ保護ネット取り付けなどのボランティア活動などにご支援をいただいておりますが、特に、

昨年度は、屋久島世界自然遺産登録20周年記念事業の一環として、林野庁による白谷雲水峡の「無名木名付け会」と財団の環境学習を組み合わせたセミナーやウィルソン博士（屋久島を初

豊かな水、森に支えられた生命あふれる屋久島の自然の仕組みや素晴らしいの一部が理解できたと感謝の声もいただきました。

「野に10日、山に10日、海に10日」これは、屋久島の自然と

白髪岳登山道を整備

【熊本南部森林管理署】当署と「多様な活動の森」協定を結んでいる「白髪岳を守る山の会」と合同で、二回目の白髪岳登山道整備を行いました。当日は急な冷え込みで肌寒さも感じられましたが、同会々員と当署職員約10人が参加。紅葉した林内や登山道周辺の樹名板設置、安全柵の補修をし、頂上まで歩道整備を行いました。今年度、合同による活動は今回で終了しましたが、今後も連携を図り、白髪岳の貴重な自然と、登山者の安全を守っていく活動を継続していくことを再確認し、無事終了しました。



登山道周辺の樹名板を設置する「白髪岳を守る山の会」のメンバーら（熊本南部）

諫早市で有志協を開催

【長崎森林管理署】地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、地元農山村の社会経済の



諫早市で開かれた有志協議会＝長崎

発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として、毎年開かれている国有林野等所在市町村長有志協議会を諫早市で開き、当日は古川隆三郎島原市長をはじめ11市1町から林務職関係の幹部が出席。九州森林管理局と長崎県から情報提供後、当署から「民国連携の取り組みについて」の説明と新たに作成した「民国連携リーフレット」の情報提供を行いました。中でも有害鳥獣被害については深刻な問題を抱え、引き続き駆除の方法や取り組み状況の情報提供を行うこととし、今後とも民国が連携して各種の取り組みを強化していくこととしました。

新燃岳治山事業対策をPR



三水会で講話をする川畑支署長＝都城

【都城支署】都城市内にある官公署や公共団体の長、都城市と三股町の首長、副市長、議会

議長、教育長を構成員とする組織で構成されている三水会の10月例会で川畑充郎支署長が、「新燃岳噴火対策の治山事業について」講話を行いました。例会には、各機関の長ら約30人が出席。代表世話人の池田宜永都城市長のあいさつの後、川畑支署長から、当支署の概要に続いて新燃岳噴火に対する治山対策のこれまでの取り組みや、治山工事における木材の利用促進や溪流生態系保全に配慮した工法の事例などを説明しました。参加者からは、当支署の治山対策の取り組みに感謝し、御嶽山噴火の直後でタイムリーな内容であったとの意見を頂きました。

県民ボランティアの集いに参加

【宮崎南部森林管理署】串間市施行60周年を記念して「宮崎県水と緑の森林づくり条例」に基づき県民ボランティアの集いが串間市で開かれました。この取り組みは、森林の有する公益的機能への理解を深め、豊かな水と緑に恵まれた県土の形成と、安全で豊かな生活の確保を目的として、宮崎県が行っているものです。当日は、串間市の市有林0.5haにおいて、当署職員を含め公募による一般参加者や林業関係団体約150人が参加。前日からの雨で足下が悪い条件でしたが、ヤマザクラやイロハモミジなど2千本を植樹しました。



三上 鈴美さん



私が、このモニターに応募した理由は、親が亡くなり、少しの山を相続したからです。実際に足でこの山に行ったところ、

イノシシの通った跡や、鳥の声を高い杉の木の間から聞いた時やはり、昔から守ってきた里山の自然は、破壊してはいけな

小さな苗ですので、中には、折られたり、つばみそのまま地面に落ちていたり、悲しい思いもしたことがあります。

今では春になると、桜の花が咲き、行きかう人々を大切に守

国有林は、育てるもの

一時期、国有林の防風林などが枯れて、役目を果たせていませんでしたが、少しずつ、国や県の方が植樹されて、今では、

最近では、活火山の噴火が活発化しています。だからといって近づかなかつたり、その山を敬遠しては、ますます、国有林が

必要です。木材建築の家屋は、日本になくしてはならない国の宝だと思っています。

(宮崎県在住)



植樹を終えて全員で記念撮影＝宮崎南部

第10回
「森林のアートギャラリー」表彰式・除幕式
 ～入賞校6校の生徒および保護者60人が出席～

「第10回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式並びに除幕式が11月16日10時から、九州森林管理局において行われ、制作にあたった生徒のほか指導した先生・保護者など、約60人が出席し開かれました。

今年のテーマは、「森林（もり）との共生」で下絵を熊本市内の中学校を対象に募集したところ、16校から44点の応募があり、下絵審査で選考された6作品について8月からアートパネル（1・4尺×4・5尺）の制作を依頼。各校の完成した力作のアートパネル作品から、最優秀賞1点、優秀賞5点を選考。最優秀賞を九州森林管理局正門右壁、優秀賞を東側ブロック塀に設置しました。

入賞した6校の表彰の後、生徒らによる除幕式を行ったところ、目の当たりにする展示作品の見事な出来映えに生徒や保護者から歓声が沸き上がりました。また、これまで展示されている作品は、道行く人たちの心を癒し、地域から好評を博しており、今回展示した作品についても自然や森林について考えてもらうきっかけになる事を期待し、今後2年間展示することになっています。



最優秀賞作品をバックに記念撮影

なお、今回の表彰作品は次のとおりです。

- 最優秀賞 「成長」
熊本市立城南中学校2・3年
- 優秀賞 「少年の日の思い出」
熊本市立江南中学校1・2年
- 「生命のつながり」
熊本市立桜木中学校1・2年

年 「時を超えて」
熊本市立三和中学校2年

「しずくの中の思い出」
熊本市立下益城南中学校1年

「楽しい森」
熊本市立西山中学校2・3年

（担当）技術普及課

地域連携でクリーン活動

【都城支署】 都城市高野町の国有林において、都城土木事務所、関係事業体や地元の大塚地区公民館の協力の下、約70人でクリーン活動を行いました。この周辺には冷蔵庫など大型家電などの不法投棄があり、参加者らは約2時間の作業でトラック3台分のゴミを回収。活動の状



ゴミの回収を行う参加者＝都城

況は、マスゴミの取材もあり、国民に対して国有林のPRと不法投棄防止の普及啓発を行うことが出来ました。

JICA研修生 13人を受け入れ



民間のコンテナ苗を視察する一行＝熊本

【熊本森林管理署】「持続可能な森林経営のための推進手法の向上研修」として、JICAの研修生8カ国から13人が当署を訪れました。森本義春署長から「九州の国有林」について講義があり、研修生からは林業の低コスト化、林業技術開発、有害鳥獣への対応などについて質問がありました。現地研修は、羽田樹苗園のコンテナ苗、国有林の森林整備事業箇所での高性能林業機械ハーベスタの実演を視察。研修生からは自国の林業行政に役立てたいとの感想があり、

また、研修担当者からは3ヵ月近くに及ぶ研修の中で、今回の視察が「印象に残った現地視察」として取り上げられたとの連絡がありました

地域イベントで林業活性化をPR

【大隅森林管理署】鹿屋市で第16回「おおすすめ木材まつり」が開かれ、当署は木工教室コーナーを設け、椅子・巣箱の木工品作りなど体験教室を開き、約100人の子供らが体験。当日はあいにくの雨模様で、テントの中では親子が協力しながら、一生懸命製作していました。イベント広場中央では、上棟式「もちまき」が行われ、署長も参加し、木材の需要拡大及び林業の活性化に向けてPRを行いました。



木工品作りに懸命な親子＝大隅

2014年
九州の国有林から

「国民の森林」実現へ
いろいろな出来事がありました

新生国有林がスタートして11年目、一般会計の下で国有林野事業がスタートして2年目を迎えました。
新たな「国民の森林」を目指して取り組んで来た主な出来事を「広報九州」の中から振り返って見ました。

森共同施業団地の現地検討会開催

地域の森林・林業の活性化などに向けた、民・国連携した森林共同施業団地の取り組みの充実を一層推進するため、森林共同施業団地の現地検討会を開きました。



ブロック毎に検討を行う参加者

今回の現地検討会は、九州管内を2ブロックに分けて開催し、各団地の取り組み事例の紹介、

民有林協定者との意見交換及び発表、情報提供を行いました。

このように一同が会する現地検討会は初めてのことで、他署の団地の取り組みや課題などについて民・国で共有することができました。

奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会を開催



第1回の委員会が開催される

1月20日、鹿児島県奄美市において、第1回奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会を開催しました。

生態系保護地域保全管理委員会を開きました。
委員会は、学識経験者や地元自治体、観光関係者、地元NPOなどで構成し、保護と利用を両立させるための指針を策定することを目的として設定。

第1回委員会では、保全管理をより効果的に進めるための課題の抽出を行い、委員からは、主要観光地への車両乗り入れ制限などが検討課題として挙げられました。

農政局とシカ被害対策を協議

シカ被害対策について有効な被害防止を実現するためには、関係機関が密接に連携した対策を効果的に推進していくことが



九州農政局とシカ被害対策会議を開く

必要です。

このため、九州農政局と九州森林管理局では、「連携モデル地域」を設定し、地域の実態・要望などを踏まえた具体的な課題・対応策などを検討するため、合同現地検討会や打合せ会議、講演などを行っています。
今後は、猟友会、九州地方環境事務所を含めた連携対策を進め、九州でのシカ被害の減少を目指しています。

九州森林環境シンポジウムを開催



多数の参加があったシンポジウム

2月17日、熊本市国際交流会議館において、地域と連携したシカ被害対策と個体数管理をテーマとした「九州森林環境シンポジウム」が開かれました。
当日は、農林業関係者、一般市民など240人の参加があり

シカ被害対策に対する関心の高さが伺えました。

第一部では関係機関による被害対策の発表及び講演、第二部では学識経験者などによるパネルディスカッションがあり、シカ被害対策における地域との連携・取り組みについて、熱心な議論が展開されました。

低コスト造林等導入促進技術普及報告会を開催

2月3日、鹿児島大学との共催により「低コスト造林等導入促進技術報告会」を九州森林管理局において、研究機関、森林組合、生産事業体などの関係機関、局署職員など約180人が参加し開かれました。



多くの関係機関が参加した報告会

報告会では、寺岡行雄鹿児島大学農学部教授から、国有林のフィールド・事業を活用して規



経営樹立に係る有識者懇談会が開かれる

格外未利用材の搬出・植付など各種功程調査・コスト分析などの成果について報告があり、今後増大するバイオマス燃料の供給と低コスト造林の推進に向けた提言など、有意義な報告会となりました。

有識者懇談会を開催

3月5日、地域管理経営計画と国有林野施業実施計画の変更・経営樹立にかかる有識者懇談会を開きました。

懇談会では、局担当者から九州森林管理局における変更・経営樹立計画の概要説明のあと審議が行われ、委員の皆さまから貴重な意見を頂くとともに、今回の変更・経営樹立を行う計画について意義なしとの結論を頂きました。



現地検討を行う綾プロ関係者

その後、主伐・再造林への取り組みについての説明を行い、活発な意見交換が行われた後、懇談会を終了しました。

綾プロ・有識者との意見交換会

2月24日、宮崎県綾町の国有林及び綾町役場において、有識者との現地検討と意見交換会が行われ、有識者6人と綾プロ連携会議関係者18人が参加しました。

午前中は、綾プロエリア内の保護対策実施箇所などにおいて宮崎森林管理署の説明による現地検討を行い、午後からの意見交換では、協定5者から事業説明及び意見交換が行われ、復元に向けた施業方法などが提起され、有識者から多くの助言が出されました。



平成26年度重点取組事項記者発表を行う

重点取組事項記者発表

4月24日、九州森林管理局平成26年度重点取組事項の記者発表が行われ、川端省三局長から一般会計移行から2年目を迎えることから、昨年度からの取り組み事項をさらに充実化させる旨の発言の後、各担当部長から「公益重視の管理経営の一層の推進」「九州からの森林・林業の再生」など各事項について、具体の取り組みの詳細な説明を行いました。

公益的機能維持増進協定の締結

公益的機能維持増進協定は、森林法の一部改正により創設され、九州森林管理局では、管内全署を対象として協定締結に取り組む、2つの協定を締結する



屋久島署管内の協定を締結



鹿児島署管内の協定を締結

ことができました。

鹿児島森林管理署管内での協定は、霧島市の民有林所有者と3月28日に協定を締結し、今年度に森林整備（間伐等）を行います。

屋久島森林管理署管内での協定は、屋久島の民有林所有者



宮崎県の意見交換会の様子

国際照葉樹林サミットII 屋久島

と3月28日に協定を締結し、今年度からアブラギリの駆除（除伐等）を行います。

民団連携に係る各県庁との意見交換会を開催

一般会計への移行から2年目を迎え、民有林との連携を加速化する観点から、5月7日の熊本県を皮切りに、九州・沖縄全県を訪問し、各県の幹部や事業担当者も加えた意見交換会を開きました。

意見交換会では、局及び各署からの情報提供を行い、民・国連携に係る課題と連携のあり方などについて話し合い、各県からは、情報提供の依頼、具体の連携の提案などがあり、有意義な意見交換会となりました。



第2回照葉樹林サミットを開催

6月7日、鹿児島県屋久島町宮之浦の屋久島離島開発総合センターにおいて、「第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島」が開かれました。

サミットには、関係省庁、地方公共団体、有識者、民間団体、地元住民など多数の方々に参加し、基調講演、テーマセッション及び全体会議が行われ、最後に屋久島・口之永良部島ユネスコエコパーク再登録への取り組みを含めた「第2回国際照葉樹林サミット宣言」を採択し閉会しました。

平成26年度
国有林材供給調整検討委員会の開催

5月29日、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

当委員会は、木材の需給動向

に応じて、国有林材の供給調整の必要性などを検討するために設置しており、審議では、年末の丸太価格の上昇から一転し、年度末から年度当初にかけて価格が低下している中で、各委員が専門分野からの意見を述べあい、その結果「現時点で国有林材の供給調整を行うことは要しなし」との結論となりました。



本年度第1回目の検討委員会を開催

林野庁長官が交替

7月22日付けで、沼田正俊前長官が退職され、今井敏新長官が就任しました。

第18回「森の塾」を開催

7月30日、監物台樹木園にて熊本県内の小学校教諭が参加し「森の塾」を開講しました。

今回の「森の塾」では、森林

の現状・課題などの講義、環境教育手法の実体験のほか、二酸化炭素含有量の測定、マイ箸づくりなど多種多彩なメニューで行い、今後の教育現場における森林・林業の普及啓発に大きく期待できる学習の場となりました。



小学校教諭を対象に「森の塾」を開講

九州フォレスター等連絡協議会が発足

8月5日、九州各県及び九州森林管理局のフォレスター等関係者が出席して「九州フォレスター等連絡協議会」の発足式を開きました。

フォレスター等の活動は、広域で多様な観点からの検討が必要であり、県別、民・国別にかかわらず、九州域内関係者の連携強化が重要となっていることから、本協議会発足により、今

後九州域内関係者が結束して森林・林業の発展に寄与することが期待されます。



九州フォレスター等協議会が発足

コンテナ苗供給調整会議及び生産技術検討会の開催

7月24日、25日に、九州各県の育苗生産組合、県林務担当者など関係者約80人が出席し「平



コンテナ苗供給調整会議を開催

成26年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術検討会」を開きました。

会議では苗木需要の動向、供給計画の調整及び生産者への増産要望に続き、意見交換会を行い、検討会では、苗木生産者からコンテナ苗生産技術の紹介と今後の課題のほか、森林総合研究所九州支所及び林木育種センター九州育種場の取り組みについての報告がありました。

翌日は、コンテナ苗植栽箇所において現地検討会と意見交換会を行い閉会しました。

芦北高校生が林業実践研修を受講



県立芦北高校生が体験研修を受講

熊本県からの委託を受けた、水俣芦北森林組合の依頼により熊本県立芦北高等学校林業科2年生5人を対象に、林業実践体

験研修を行いました。

研修では、監物台樹木園での樹木の特徴や葉の構造、用途についての講習のあと、局研修室において、林野庁の業務内容や森林・林業の現状と課題などについての講義を行いました。

研修生からは「コンテナ苗の植え付け面積は」などの質問が出るなど、林野業務への関心の高さがうかがえ、貴重な体験研修となりました。

国有林モニター会議を開催

9月6日、国有林モニターの皆様は、国有林の取り組みを理解し、より身近な存在として認識していただくために、九州森林管理局において平成26年度国有林モニター会議を開きました。会議では、日本の森林・林業



国有林モニター会議を開催

の状況や、国有林の取り組みの説明のあと、意見交換会を行いました。モニターの皆様からの意見や感想については、今後の国有林野の管理経営や次回会議の充実に向け活かしていくこととしています。

ナイストライ事業を受け入れ



ナイストライ事業を体験

熊本市立北部中学校と京陵中学校からの「ナイストライ事業」の要請を受け、北部中学校2年生3人、京陵中学校2年生5人が、九州森林管理局において職場体験を行いました。

生徒達は、新聞記事の切り抜きや監物台樹木園での管理作業、森林パトロールや境界巡検の現地実習、広報誌の作成などを体験しました。

3日間という短い期間でした

が、参加した生徒達には貴重な体験となりました。

屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキングを開催

10月25日～26日に屋久島環境文化村センターにおいて、屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループが開かれました。

会議では、今後の科学委員会の検討課題、モニターリング調査のヤクシカ対策、山岳部の利用のあり方について活発な議論が行われました。

また、屋久島町から、現在登録準備中の屋久島・口之永良部島ユネスコエコパーク登録に向け屋久島町全体で取り組む旨の説明があり、委員会を終了。



屋久島世界遺産地域科学委員会を開催

「熊本市水道の森」協定を締結

11月26日局長室において、熊本市上下水道局と「法人の森林」の契約調印式が行なわれました。

熊本市は水道水源のすべてを地下水で賄っており、水道創設90周年を契機に地下水源かん養効果のある熊本森林管理署管内の大野国有林に3・04杉、林道の森」として設定。

地下水かん養効果のある森林保全活動を通じて広く市民に普及啓発とPRを図っていくこととしています。



熊本市と水道の森協定締結

国有林新市町村長有連絡協議会開催

11月27日熊本市内のKKRにおいて、九州各県ブロック代表市町村長と代表森林管理署長、

局長をはじめ関係職員参加のもと開かれ、冒頭、川端省三局長から九州の森林の多様性を活かして公益的機能の発揮を図り、九州から林業再生に向けた取り組みを発信したい。その為には民有林と国有林が連携を取りながら進めることが重要である旨のあいさつがあり、林野庁から国有林野事業の主要な取り組み、平成27年度予算概算要求などについての説明。局からは九州における最近の取り組み事例についての説明が行なわれました。その後、代表市町村長から、地域でのさまざまな取り組みや国に対する要望や発言をいただきました。



平成26年度国有林野所在市町村長有志連絡協議会を開催

甲佐町立 龍野小学校が森林教室

11月13日、甲佐町立龍野小学校からの要請で、監物台樹木園において3年生24人を対象に森林教室を行いました。

今回の森林教室は、総合的な学習の時間「龍野小の自然博士になろう」に伴う学習として社会科見学も兼ね、樹木園を訪れたものです。

まず、子供たちの緊張をほぐすため、ネイチャーゲーム「私は誰でしょう」を行い、その後樹木名クイズを出題。クイズに出題した樹木などを観察し、名



講師の説明を熱心に聞く子供ら（監物台樹木園）

前の由来や用途、特徴などについて説明すると、葉っぱを触ったり匂ぐなどして興味深そうに聞き入っていました。

続いて、サクラの枝を利用してストラップ、「もっくん」を作成。さまざまな部品で思い思いのデザインを施し、出来上がりに喜んでいました。

最後に見学から、「楽しく森林について学習ができました」とのお礼の言葉があり、森林教室を終了しました。

（担当Ⅱ技術普及課）

久住ミズナラの森協定を締結

【大分森林管理署】「多様な活動の森」の一環としてNPO法人久住高原みちくさ案内人倶楽部と整備協定の調印式を行い「久住ミズナラの森」と命名。対象となっている九重山系は有数の登山及びトレッキングのメッカとして多くの登山愛好家に親しまれ、近年の登山ブームにより荒廃が進み、歩道の維持管理が喫緊の課題となっていました。

協定は久住山南登山道一帯の整備や久住山系の森林資源、史跡

を活かし広く国民にPRする好機になればと考えています。本年度は「山の日」が制定され、その趣旨に即したものとよりそうです。また、当日は同法人に対し日頃の功績が認められ、環境省自然環境局長表彰の伝達式も併せて行いました。この協定を機に関係する各団体との連携が一層深まる事を期待しています。



「久住ミズナラの森」として協定を締結するⅡ大分

JICA研修生を受入

【長崎森林管理署】国際協力機構（JICA）が行う研修「中華人民共和国四川省・震災後森林植生復旧計画プロジェクト日本研修」で8人の研修生を受入れ、島原市眉山地区治山事

業の概要を説明しました。中国からの受入れは今回で2回目。導流堤や霞堤などの構造物の説明を熱心に聞かれ、母国の森林植生の復旧を願う研修生の強い思いが感じられました。今後、国有林の治山技術が、中国での「復旧計画プロジェクト」に少しでも貢献できるよう願っています。



治山事業の概要について説明を聞くJICA研修生Ⅱ長崎

飴肥スギで親子木工教室

【宮崎南部森林管理署】11月13日、当署駐車場において日南幼稚園の園児や保護者約130人が参加し、木工教室を開きました。これは、木の温もりに触れながら、創造力や物を作る楽しさを体感してもらうことを目

的として毎年開いているものです。肌寒い気候の中、園児はお父さんやお母さんとノコギリや金鋸を使って大作に挑戦していました。この機会に、子供に良いところを見せようと必死に頑張るお父さんの姿がとっても印象的でした。今回の体験で、物作りの楽しさや木材に親しむ心が芽生えてくれることを願っています。



出来上がった作品を前に記念撮影Ⅱ宮崎南部



12月1日付森林管理局長発令
宮崎署地域技術官
井上祐二郎（宮崎署）

佐賀県きのこ選手権を開く

【佐賀森林管理署】佐賀東部佐賀西部流域森林・林業活性化センター主催の第5回佐賀県きのこ選手権が11月22日に開かれました。このイベントは、伐採技術者の育成確保と技術向上を目的とし、県内の伐採作業に従事する技術者を対象に2010年度から開かれ、今年で5回目となりました。当署も審査員として参加し、今年は、県内18チーム54人が優勝を目指し、日頃の技術を競い合いました。競技は、伐倒競技、丸太切り競技、丸太輪切りリレー競技3種目で行われました。この選手権は伐採技術だけでなく、安全基準を遵守し、安全面の採点も競技成績に大きく関係しています。将来は、



競技に参加した多勢の参加者＝佐賀

佐賀県から世界伐木チャンピオンシップに出場を目標に、更に林業従事者の安全意識の高揚並びに林業技術の向上が図られていくことが期待されます。

猪八重溪谷で森林教室



森林教室へ参加した児童ら＝宮崎南部

【宮崎南部森林管理署】日南市立瀧上小学校の5年生20人を対象に、森林セラピー基地に認定された猪八重溪谷で森林教室を行いました。当日は「NPO法人ごんはる」から講師として職員が参加。セラピーロードと名付けられた歩道を周りの木々や溪谷の風景を楽しみながら歩きました。歩道沿いには、森林軌道の跡や炭窯の跡など施設が残っており、子供らは職員の説明を興味深く聞いていました。また、途中の河原では化石探し

やネイチャーゲームを楽しみ、森林が持つ多くの機能や自然の素晴らしさを肌で感じた一日でした。

JICA研修生を受入れ

【西表森林生態系保全センター】2014年度の国際協力機構（JICA）による集団研修の一つである「住民参加による多様な森林保全」コースの研修生を受け入れました。研修生は13カ国から14人が参加しました。

4日には沖縄県や西表島の森林概況や当センターの活動状況などの講義を受け、5日にはサキシマスオウノキや亜熱帯林の中を視察しました。研修生の多くは熱帯地域の国から参加しており、西表島における現場視察では、気候や植生などの共通性などを感じながら、いろいろな質問をしていました。今回の西表島での経験が、今後彼らの活動に寄与できることが期待されます。



講義を受ける研修生＝西表保全センター



大分県日田市在住時に、日田祇園祭に参加した。1年目は一般観客として祭りを見ていたが、サラン、はっぴ姿で数トンもある山鉦を勇壮に引いたり回したりする光景に、元来の祭り好きの血が騒ぎ、2

年目は地域の中城町の住民として参加させてもらった。7月下旬の祭り本番に向けて、6月中旬から山鉦の飾りや土産物の「ミニパイパイ」の作成のため、週に2・3日の夕方準備会場が集まり、コツコツと手作業に励む。

祇園祭に参加して

地道にこなす中で、おのおの身の上話や四方山話で会話が弾む。作業終了後の一杯もお互いの距離を近づける特効薬であり、次第に地域に溶け込んでゆく実感がわいてきた。祭り本番の数日前に各地区の山鉦が日田駅前に集合する「集

日田祇園祭は約300年前から現在の山鉦の奉納が始まったと言われ歴史も古いことから、地域の祭りに対する情熱は凄まじく、縦の指揮系統もはっきりしている。私は当時53歳、年齢では上位グループであったが新入団員待遇。与えられた仕事を

団顔見せ」が行われる。集まる山鉦は9基、大勢の観客で駅前広場が埋め尽くされる中で、それぞれ山鉦を勇壮に披露する。祭り本番も同様に住民や多くの観光客の視線の中で祭りの中心にすることが実感でき気分爽快。祭りを終えた後も、街で出会

えば気軽に声掛け合える関係となり、現在も交流が続いている。国有林野事業は平成25年度から一般会計となり、その役割として「地域振興や住民福祉の向上への寄与」が挙げられており、このためには、地域の声を聞く上で、住民の力がたとえ交流は欠かせないものではないだろうか。

資源活用課長 古閑 博行

消防訓練を実施

地震・火災発生に備えた避難などの訓練

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」の全国統一防火標語の下、11月9日から15日までの一週間、秋の全国火災予防運動が行われました。

森林管理局では、空気が乾燥し、火災が発生しやすくなる時期を迎え、火災予防の意識を高めるため11月26日に局庁舎内で消防訓練を行いました。また、今年度は、シェイクアウト訓練も併せて行いました。



初めてのシェイクアウト訓練を行う

消防訓練は、熊本市西消防署池田庁舎にご協力をいただきながら、火災発生時の通報や初期消火、避難誘導などの手順を本

番さながらに確認しました。

その後、消火器を使った初期消火の訓練も体験しました。

消防署からは、火災発生を大声で知らせること。消火器消火では、燃えている場所を確認し消火すること。災害対策では、地域の繋がりが大切であり、「備えあれば憂いなし」のこと



カジイチゴは人家の庭では時々観察しますが、山野に自生しているのは観察したことがありません。太平洋側の暖地に野生するためです。

熊本県植物誌八代の植物に記載はなく、大分県の植物誌には記載があります。名前はカジノキの葉の形に似ていることから名前ですが、種子から増えるのでなく地下茎によって盛んに繁殖します。監物台樹木園でも春になるとあちこちに芽が出てくるのを観察できます。

わざにもあるように平日頃からいざというときの準備をしておくことなどの指導がありました。

最後に自衛消防本部長の森脇総務企画部長が「今回は、新たに地震が発生した場合の訓練も取り入れた。迅速な避難及び集合・報告も行われていた。本日に発生した時は、本日の訓練のように冷静に行動して下さい」との講評があり、訓練を終りました。

(担当 経理課)



模擬消火器を使った初期消火訓練

86 カジイチゴ (バラ科)

とでしよう。

バラ科のイチゴ類はほとんど刺がありますが、カジイチゴには刺がありません。

葉は互生、長柄があり葉身は掌状3〜7中裂、2重鋸齒縁となっており、葉がテカテカと光って、いかにも南国の植物らしい雰囲気があります。浅く分裂する葉を分裂葉といい単葉です。完全に分裂すると複葉といえます。

花冠は白色、花弁は5枚、淡黄色に熟した果実を観察できたら食べてみて下さい、甘酸っぱい味はいつまでも記憶に残るこ



今年の新語・流行語大賞は「ダメよくダメダメ」となった▼業務やスキーで訪れたことのある御嶽山が2ヵ月前に突然噴火し多くの犠牲者を出した。火山活動が穏やかと思っていた山で起きただけに驚いた▼11月25日から阿蘇山の活動が活発になっている。噴煙は高さ1500m、噴石は上空400mに達している。自宅の窓ガラスは噴火による「空振」で揺れ、明け方には「火災現象」も見えた▼火山灰は熊本市内や大分県南部、宮崎県北部にまで及んでおり、熊本空港を発着する航空便や観光、農産物や暮らしなどへも影響が出ている。出勤時に噴煙の方向を確認することが日課となった▼平成に入り、普賢岳、三宅島、有珠山、新燃岳、小笠原諸島西之島海底火山が噴火し、今年、草津白根山、口永良部島新岳、桜島、蔵王山などでも火山活動が活発化している▼日本の活火山の約2割にあたる19の活火山が九州・沖縄にある。阿蘇山や硫黄山及び桜島などの火山活動が活発な火山の活動が穏やかになることを願う。噴火しちゃ、ダメよくダメダメ。(大)